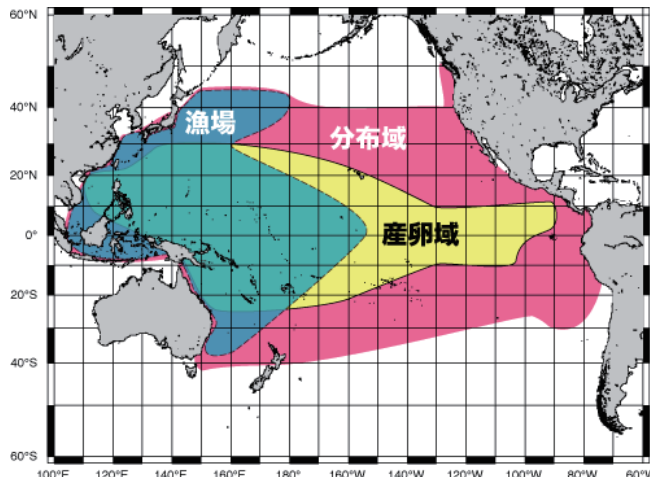


カツオ 中西部太平洋

Skipjack, *Katsuwonus pelamis*



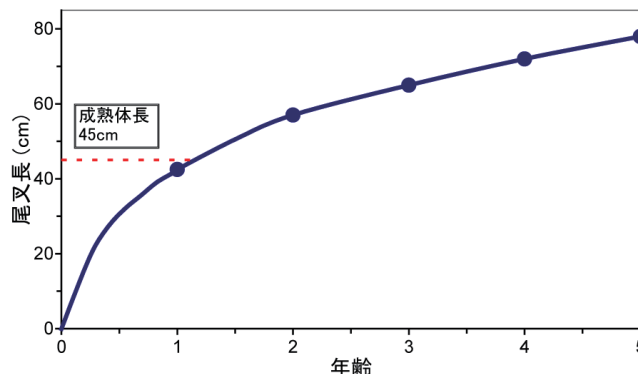
太平洋におけるカツオ分布および漁業分布

管理・関係機関

中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC)

最近一年間の動き

2007 年の中型・小型の竿釣りによる 1~6 月における小笠原・伊豆・房総沖での漁獲量は約 0.8 万トンで、例年と比べ非常に少なかった。これは 5~6 月における中型竿釣りがビンナガをねらって操業したことと強く関係している(遠洋水産研究所 2007)。7 月に常磐沖・三陸沖でカツオの漁獲はやや好調となったものの、その後漁獲量はあまり伸びず、10 月末現在での累計は約 2.7 万トンとなった。その一方で、まき網による 5~7 月の常磐沖・三陸沖での漁獲は全般的に好調で、9 月の漁期終了までに約 3.4 万トンを漁獲した。2006 年 8 月~2008 年 5 月にパプアニューギニア (PNG) と SPC による大規模放流調査が実施され、PNG の 200 海里内でカツオ約 4 万尾が放流された。この標識カツオの再捕が、熱帯域で操業するわが国の海外まき網船の漁獲物から多数(約 200 尾)報告されている。



中西部太平洋のカツオの成長パターン

(Tanabe et al. 2003, 嘉山ほか 2003 より作成)

漁業の特徴

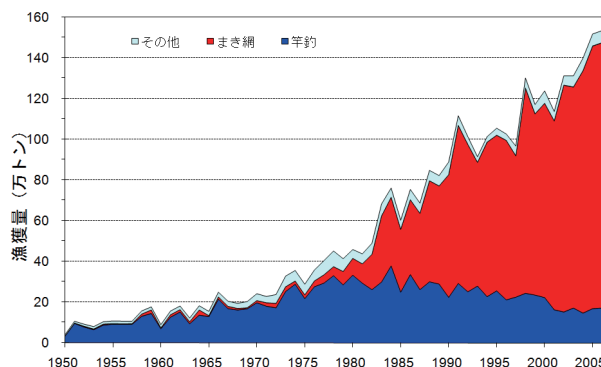
まき網漁業が中心で 8 割以上、竿釣り漁業が約 1 割、その他の漁業が 1 割弱を漁獲する。まき網漁業については日本・韓国・台湾・米国の遠洋漁業国が 5~6 割を占め、他はインドネシア、パプアニューギニア、フィリピンが多い。竿釣りについては、日本が 6~7 割を占める。日本周辺の中心的漁場の常磐・三陸沖漁場(漁獲量 10 万トン前後)でも 1980 年代後半からまき網操業が増加し、年により漁獲量の半分近くを占める。

生物学的特性

- 寿命：6 歳以上
- 成熟開始年齢：1.5 歳
- 産卵場：表面水温 24°C 以上の海域
- 索餌場：表面水温 15°C 以上の海域
- 食性：動物プランクトン、魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類、海鳥類など

利用・用途

刺身・たたきによる生食、缶詰や節原料

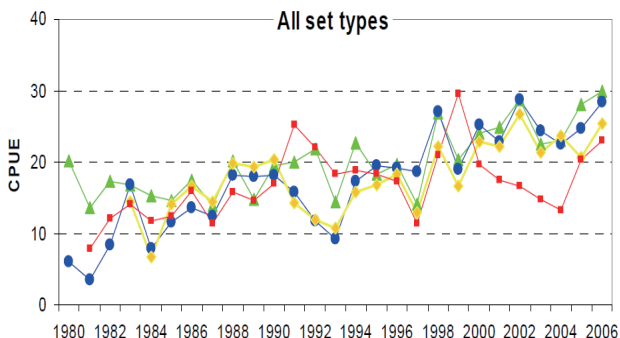


中西部太平洋カツオの主要漁法別漁獲量の経年変化

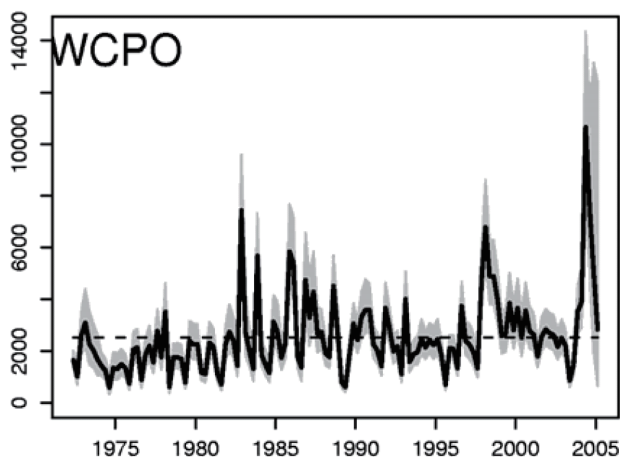
(Lawson and Williams 2007)

漁業資源の動向

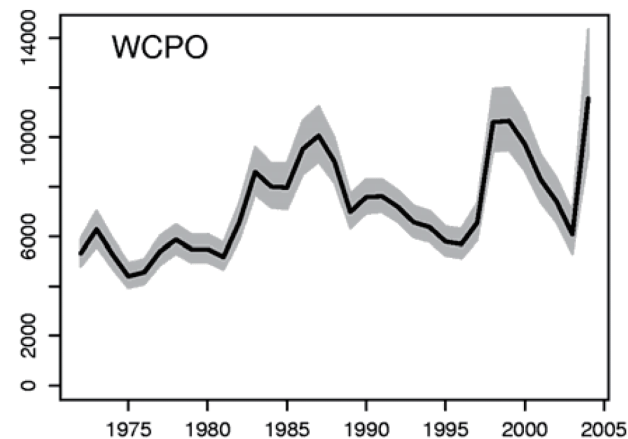
戦後、日本の竿釣り漁業等の漁場拡大により漁獲量は徐々に増大し、1960 年代後半には 20 万トン、1970 年代後半には 40 万トンに達した。その後、さらに熱帯水域のまき網漁業の規模拡大で急増し、1990 年代には 100 万トン前後が漁獲され、1998 年からは 120 万トン前後で推移し、2006 年には過去最高の 154 万トン（暫定値）に達した。このうち北緯 20 度以北の日本近海での漁獲量は 1970 年代以降、15～20 万トンで安定している。



日本 (▲)・韓国 (●)・台湾 (◆)・米国 (■) の標準化されていないまき網カツオ CPUE (1 日あたり漁獲重量)
(Williams and Reid 2007)



中西部太平洋全体の加入量推定値の経年変化 (四半期ごと)
単位は 100 万尾、灰色は 95%信頼限界、点線は解析期間の平均値
(Langley et al. 2005)



中西部太平洋全体の資源量推定値の経年変化 (年ごと)
単位は千トン、灰色の部分は 95%信頼限界 (Langley et al. 2005)

資源状態

漁獲による死亡の割合は増加傾向にあるが、自然死亡に比べて低い値に留まっている。新規に資源に加わる加入量は大規模な海洋変動現象の El Niño (エル・ニーニョ) 現象に続いて多くなる傾向にあり、1980 年代中期から高い水準が続いている。資源量の変動は加入量による部分が多い。最近の資源量は長期的な平均値より高い水準にあると考えられる。漁業の資源利用の割合は増加傾向が見られ、最近年で 14%となっている。現在の漁獲率は MSY レベルより下で、過剰漁獲ではなく、資源量も MSY レベルより上で、乱獲状態ではないと考えられる。

管理方策

漁獲率は資源が持つ生産力より小さいと考えられる。漁獲量は過去最高レベルとなっているが、加入がこれまでの長期的な平均を下回らなければ持続可能と考えられる。なお、WCPFC では、メバチ・キハダの保存管理措置として、まき網漁業の努力量制限等が合意され、カツオ漁獲量の動向に影響すると考えられる。

資源評価まとめ

- 最新の資源評価は 2005 年の WCPFC 科学委員会で実施
- 漁獲率は MSY レベルを下回り、過剰漁獲でない
- 資源量は MSY レベルを上回り、乱獲状態でない

資源管理方策まとめ

- 漁獲率は資源の生産力より小さく、加入が長期的な平均を下回らなければ持続可能
- メバチ・キハダ保存管理措置として、まき網漁業の努力量制限等が合意されており、カツオ漁獲量の動向に影響すると考えられる。

カツオ(中西部太平洋)の資源の現況 (要約表)

資源水準	高位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	131～154 万トン 平均：142 万トン (2002～2006 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	29～36 万トン 平均：32 万トン (2002～2006 年)